

研究成果情報

平成 28 年度

もものポット大苗を利用した定植 1 年目から収穫できるシンプル栽培技術		
[要約] 大苗を利用した密植により早期に収量が得られる栽培方法を開発した。苗木は不織布ポットで 1 年間育苗して 2 m の大苗を育成する。大苗を 100 本/10a の並木植えにして、比較的簡単な栽培管理を行うことで定植 1 年目から約 0.3t/10a、2 年目で約 1 t/10a の収穫が可能となる。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

新潟県は江戸時代から続くもも産地であるが、近年、生産量が低下し続けている。ももは果樹の中では経済樹齢が短く 15～20 年程度で植え替えが必要となるが、連作障害による樹勢低下も問題となる。そこで、大苗を利用して改植後の早期収量回復を図るとともに、新規栽培者が連作障害のない新たな園地への導入に取り組みやすい技術を開発し、新潟産ももの生産振興を図る。

[内容]

1 育苗方法 (図 1)

- (1) 育苗は芽接ぎ苗または購入苗を不織布ポットに植え付けて管理する。
- (2) 2 週間ごとの誘引と副梢の摘心を実施することで秋に 2 m 程度の大苗が完成する。

2 定植と定植 1 年目の管理 (図 2)

- (1) 定植は春植えを基本とし、列間 5 m、樹間 2 m で植栽し、主幹形で管理する。
- (2) 1 結果枝あたり 1～2 個着果させ、定植当年から収穫する。
- (3) 2 年目以降は 1 本おきに永久樹を斜立主幹形に移行しながら管理する (図 3)。

3 シンプルな剪定と新梢管理 (図 2)

- (1) 従来、熟練技術を要するとされていた剪定と新梢管理はそれぞれ 4 つのポイントに絞った簡単な管理で実施する (剪定のポイント: ①先端は曲がるところで切り返し②幹の太さの 1/2 より太い枝は基部の葉芽を 2 芽残して切る③二又に分岐している枝は 1 本にする④隣と触れあう枝は切る)。

4 収量、品質

- (1) 定植 1 年目 0.3t/10a、2 年目 1 t/10a 程度の収量が得られる (図 4)。
- (2) 2 年目までにおいて果重は小玉傾向だが、糖度等の内部品質は十分な果実が収穫できる (データ略)。

[導入効果]

ももの新植、改植が促進され、新規導入による経営安定や生産拡大が図られる。

[導入対象]

- 1 水稲との複合経営で果樹の新規導入の意向がある農業者
- 2 老齢樹の改植や良食味品種への品種更新の意向があるもも生産者
- 3 県内少雪地域

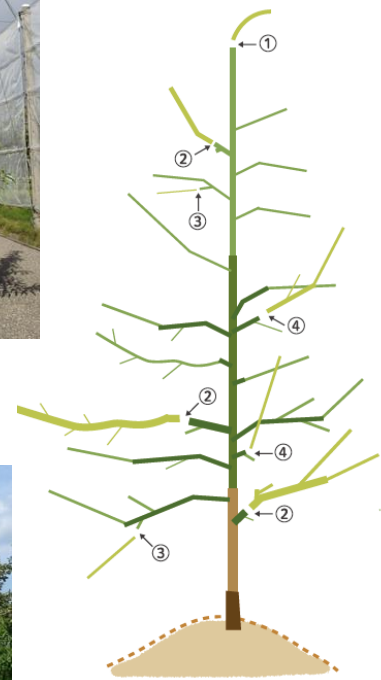
[留意点]

品種選定や技術の詳細については栽培マニュアル「シンプルもも栽培を始めよう」(園芸研究センター発行)を参照する。

[具体的データ]



図1 ポット育苗の状況と完成した大苗



4ステップのシンプルせん定

- ①先端は曲がるところで切り返し。
- ②幹の太さの1/2より太い枝は、基部の葉芽を2芽残して切る。
- ③二又に分岐している枝は1本にする。
- ④隣と触れあう枝は切る。



3～4月に定植 → 8月初収穫

図2 定植1年目：大苗の定植から収穫と落葉後のシンプル剪定



図3 定植2年目
(1本おきに永久樹を斜立主幹形に移行)

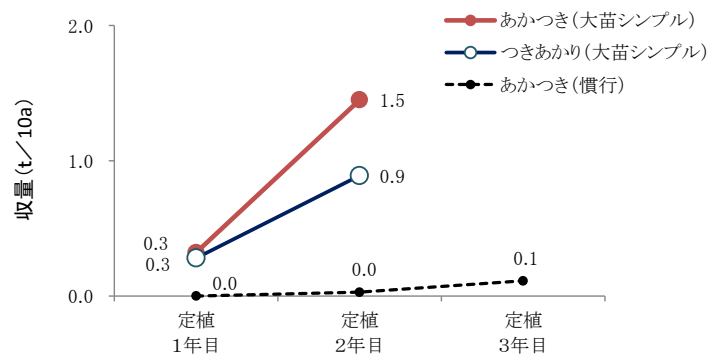


図4 年次別収量の推移
(大苗シンプルは100本/10a、慣行は40本/10a)

[その他]

研究課題名：モモ黄肉品種の大苗利用で1年目から収穫可能なシンプル栽培技術の開発
 予算区分：県単経常、外部資金（中央果実協会）
 研究期間：平成25～27年度
 発表論文等：平成27年園芸学会秋季大会で発表